上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会
活動報告会を開催しました

令和5年2月18日（土）に上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会（以下、協議会という。）の活動報告会を、リージョンプラザ上越で開催しました。最初に事務局から協議会全体の取組について説明を行った後、4専門部会の3年間の活動内容・評価・次年度に向けた課題や、令和5年度以降の取組方針について、川瀬、小山、竹田、吉崎部会長が報告しました。

続いて、4部会長に揚石上越地域在宅医療推進センター長と和栗上越地域居宅介護支援事業推進協議会長を加え、小林上越市福祉部長の座長のもと、「上越地域の医療・介護連携で大切なこと」をテーマに、座談会を実施しました。

座談会の要旨は次のとおりです。

＜川瀬 入退院時連携推進部会長＞

【活動に関わった感想】

・コロナ禍で集まる機会が少なかったのは残念だったが、研修会で医療・介護それぞれの意見を交換することができ、相手の立場を知り気づくことが多く、有意義であった。

【医療・介護連携で大切だと思うこと】

・立場により必要な情報には相違があることを前提として、その情報はお互いに共有することが大切であり、また情報提供はなるべく早い方が良い。したがって、まずは連絡を取ることが大切である。その最初の切り口として、「地域連携連絡票」がある。支援者として必要な情報を自ら集めるという意識が大切であると感じた。

＜小山 対人援助スキルアップ部会長＞

【活動に関わった感想】

・医師や歯科医師の先生方と同じ目線で意見交換をすることができたのは貴重な体験だった。

・部会員全員で共感するという経験もでき、多職種連携の先にある多職種協働までの貴重な経験ができたことが良かった。

【医療・介護連携で大切だと思うこと】

・私たち専門職は、専門性が高いほど、無意識のうちに役割分担を行ってしまい、それは患者さんのためになっていないかもしれない。まず本人の目線でその人の気持ちを理解しようと、職種の垣根を越え、共通した考え方で本人を見ること、理解しようとすること自体が解決の糸口になると思う。地域で研修パッケージを活用し、研修を広げ上越地域全体のQOLの向上ができるとよい。

＜竹田 急変時対応部会長＞

【活動に関わった感想】

・ある医師が「医療と介護は両輪である。お互いに知ること、近づくことが大事」と言われていたことが、とても素敵な言葉であり印象に残った。部会の活動自体がお互いを理解する良い機会であった。

・自分自身、この活動で学んだことを活かし日頃の支援に携わっていきたい。

【医療・介護連携で大切だと思うこと】

・医療側は、患者さん自身のことや患者さんの生活や人生への意向、また関わる介護関係者がどのようなことをしているのかを知りたいと思っていることが分かった。

・そのため、介護側は、もっと病院や医療側に相談したり状況を伝えたり、頼る努力が必要なのだと感じた。広く多職種の意見を聞いてチームで支援することが大切だと思う。

＜吉崎 市民啓発部会長＞

【活動に関わった感想】

・日頃は病院でソーシャルワーカーとして個別支援というミクロレベルの支援を行っているが、この協議会の活動をさせていただいたことで、課題や問題点をメゾレベル、マクロレベルの支援につなげることができたと思う。日頃の業務では実践することができない内容であり、とても新鮮でやりがいや充実感を味わうことができて良かった。

【医療・介護連携で大切だと思うこと】

・医療側も介護側もフラットな立場で自立した姿勢でコミュニケーションを取り、協働することが大切だと思う。さらに、多職種連携・協働による相乗効果を関係者全員が意識することで、課題解決に向けた取組につながると感じる。

＜和栗 居宅介護支援事業推進協議会長＞

【活動に関わった感想】

・在宅医療・介護連携推進協議会の活動は、日々のケアマネジャーの悩みに直結していると思う。入退院時の医療機関との連携や、利用者・家族との信頼関係の構築、急変時の対応、地域との連携、地域資源の活用など、本協議会の活動はケアマネジャーの困りごとの解決につながると感じた。

・職能団体として対人援助スキルアップ研修会を共催したが、使用する資料や進め方、まとめの動画までパッケージ化がされており、オンライン開催にも対応できていた。ケアマネジャーのみにとどまらず、多職種が活用、開催しやすい研修スタイルが確立していた。また、対人援助スキルアップ部会以外の各部会の取組も、支援者としてのスキルアップにつながる質の高いものだと感じた。

【医療・介護連携で大切だと思うこと】

・介護支援専門員の職能団体としては、在宅医療・介護連携推進協議会の活動をさらに広め、連携を図りながら協働することで、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域づくりを目指していきたいと思っている。

＜揚石 上越地域在宅医療推進センター長＞

【活動に関わった感想】

・各部会長からの活動報告を聞いて、3年間の中でどの部会も予想以上の成果を出していただいたと感じた。これは、多職種の人たちが顔を合わせ、互いに意見を出し合い一緒に考えたからだと思う。

・この協議会の大きな目的は医療と介護の連携推進だが、部会の活動を通していろいろな職種の方と、人と人として交流することに意味があると思った。

【医療・介護連携で大切だと思うこと】

・人を援助するということは、何も医療や介護に限られたことでなく、人間にとって普遍的な行動であり価値観だと思う。それは振り返れば、普段の私たちの仕事での他職種との関係にも当てはまる。お互いを肩書や職種で判断しない。互いにひとりの人として尊重し、相手の視点に立って考え、互いに助け、助けられながら、患者さんやご家族をチームとして支えていくこと。そのチームとして働く心地よさを、この上越地域で専門職の皆さんに体験していっていただきたいと思っている。

■終わりに

活動報告会は土曜日の午後にもかかわらず、90 人の参加がありました。終了後のアンケート調査では、大変満足、やや満足との回答が 86%を占め、事務局としても嬉しく感じております。

今後も多くの方から在宅医療と介護の連携を推進するチームの一員として、当協議会の取組に参加していただきたいと思っております。協議会委員の皆様におかれては、任期終了後も引き続きご協力をお願いいたします。